

石原遼太郎

サククスとコンピュータのための窓さ(2024)

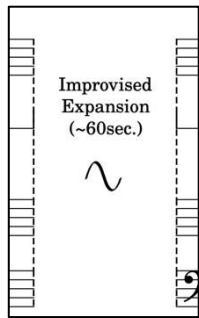
Window-ness for Saxophone and Computer

サククスとコンピュータのための窓さ

Instrumentation

1 Saxophone and Computer

Notations



Improvised Expansion

この指示が示されるまでに記譜されたモチーフに配慮し、即興的に拡張する。

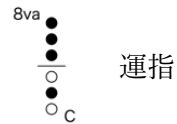
Symbols

△ 通常より短いフェルマータ

○ 通常のフェルマータ

◻ 通常より長いフェルマータ

① ペダル番号



1/4 シャープ

b 1/4 フラット

Explanation

この楽曲は1台のサックスとコンピューターのために作曲された作品であり、また同時にこの楽曲は、「窓さ」というコンセプトに基づいて制作されている。「窓さ」とは、作品がその構造上に持つ要素としての関数構造=要素関数性であり、これは作品の外側のある事象を何らかの形で引数として取り込む機構である。この作品においてコンピューターはつねに、その演奏中において、その演奏当時の「年」「月」「日」「時」「分」の値を引数として取り込み、音響に反映する。またここに乱数の要素はなく、このコンピューターによる演算はつねに遡及可能である。この引数の状態の可能性全体が合法則性の中に収束された状態の「窓さ」を「収束する窓さ」と作者は定義している。また演奏家の即興を求める記譜=エクリチュールは演奏家の演奏の次第をその引数とする定数の構造を有している。この演奏家の演奏の次第としての引数の状態の可能性全体はつねに拡張しており、この因数の状態の可能性全体が常に発散される状態を「発散する窓さ」と作者は定義している。すなわちこの作品には二つの異なる「窓」が存在しているのであり、この楽譜としてのエクリチュール=シニフィアンは——その風通しによって——、その意味内容=シニフィエの浮遊、その根源的な同定不可能性の運動を肯定し続けている。

Notes on Performance

五線上に記譜されたリズムは、必ずしもその厳密な再現を期待しているものではない。この楽曲においては、演奏者による即興的なリズム、音価のリアレンジメントを可能とする。

コンピュータに関しては専用のパッチを使用する。またコンピュータとの同期に関して、楽譜上に記されたペダル記号に従い、専用パッチをペダリング・コントロールする。

出力は4chであり、1,2chのスピーカーを演奏家から離れて配置し、3,4chのスピーカーを演奏家の足元に配置する。



演奏家付近の配置の例（立って演奏する場合）

Total duration

Approx. 9 min.

サクソとコンピュータのため窓さ (2024)

Window-ness for Saxophone and Computer

Ryotaro Ishihara

♩ = 50~60

A

Tenor Saxophone (in Bb)

Pedal

Electronics (in C)

8va

ppp *mf*

pp *mf*

<pitch shift>

Improvised Expansion (~60sec.)

①

②

③

④

B

T. Sax.

Pedal

Elec.

p *mf*

mp

mp <pre-rec.>

Improvised Expansion (~60sec.)

①

②

③

④

2

21

T. Sax.

mf

Pedal

Elec.



31

T. Sax.

Pedal

Elec.

42

T. Sax.

Pedal

Elec.

C

Improvised Expansion
(about 2min.)

D

8va

ppp *mf* >

pp *mf* >

pp *mf* >

p >

5

<pitch shift>

6

7

53

T. Sax.

Pedal

Elec.

E

Improvised Expansion
(~60sec.)

p

p

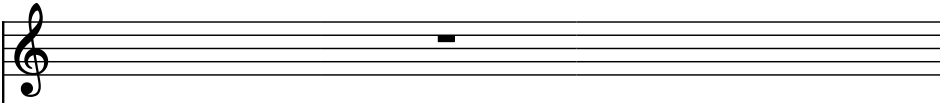
8

4

TACET (about 90 sec.)

58

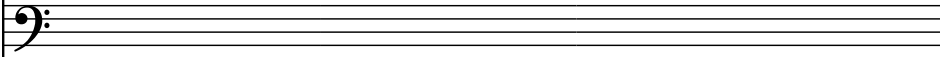
T. Sax.



Pedal

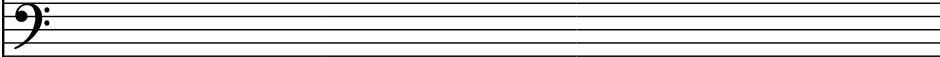


Echo - - - - >



Elec.

Elec. (pre-rec.) - - - - >



Improvisation
(180 sec. ~ 210 sec.)

